

### 第5回日本福祉のまちづくり学会全国大会 開催報告

第5回日本福祉のまちづくり学会全国大会は、2002年8月8日から3日間の日程で熊本市は熊本城の傍らに位置する熊本市民会館で開催された。会場の市民会館は30年ほど前に建築されたものだが、内部を大改装され、アクセシブルな建物に生まれ変わっていた。

8月8日(木)は一般市民にも無料で公開され、市民会館の大ホールはほぼ全席が埋め尽くされているという盛況ぶりだった。開会式には熊本県知事、熊本市長がともに出席し、引き続き両氏は特別講演を行った。

潮谷熊本県知事は、「福祉のまちづくりとユニバーサルデザイン」という題の特別講演の中で施策としてバリアフリー、エイジフリー、そしてジェンダーフリー3つのフリーを提唱した。知事は長い間福祉の現場で働いてきた人で、知事就任以来ユニバーサルデザインを県政の柱に据えて取り組んでいる。年齢差、性差、そして障害の有無に関わらず、県民誰もが生き生きと参加できる社会の実現に向けて力強いメッセージを述べられた。

続いて三角熊本市長は、冗談を交えながら、路面電車の復活を中心に熊本市の取組みを紹介した。長い時間をかけて地下に蓄えられた水を文明化の中で消費し尽くそうとしていることに対して、緑化の推進に取り組んでいることも紹介された。持続可能な社会なくして福祉のまちづくりもありえない。熊本市は熊本城を中心に街が開けているが、加藤清正の築城とあって、難攻不落な城づくりが行われた。城に至る街路はいたるところで鍵の手に曲げられ、一度に攻め入ることができないように工夫されていた。このため、中心市街での自動車交通が円滑に流れず、結果として公共交通機関の利用が活発であるようだ。市内を走るバスは急

速にノンステップ化が進められ、路面電車は20分に1本はノンステップ車両が運行している。路面電車の路線はこれから延伸する計画もあるとのことだ。

三角市長も長年身体障害者団体の代表を勤められ、ご自身も脚に障害をお持ちとのことで、知事も市長とともに障害をもつ人に対する理解が深いという恵まれた地域だと言える。

昼食をはさんで午後からは、「上海市における福祉のまちづくり」と題して上海市紅十字会会長の謝麗娟氏が講演を行った。紅十字会とは日本でいう赤十字のことで、謝氏は医師であり、戸海区中心病院の副院長や上海市の副市長を歴任されている。上海市も都市化の進行とともに高齢化問題が顕在化してきており、地域福祉サービスの現状がパワーポイントを用いて紹介された。上海市の60才以上の人口比率は18.58%で、中国で最も速く高齢化と都市化が進んでいる。政府は「中華人民共和国老人權益保障法」を、上海市は「上海市老人權益保障条例」を制定して、年金保険、医療保険、基本的な生活保障を支え、高齢者が老後を住み慣れた家で送れるように地域に専門サービスのネットワークを構築したとのことだ。

研究討論会1は大東地域リハビリテーション研究所所長の山本和義氏がコーディネートし、「心のバリアフリーとボランティアスピリッツ」というテーマで会場を交えて討論が行われた。パネリストには各障害区分から4名が登壇し、社会の障害に対する理解の不足や、権利確立に対する要求が提示された。

第一日目のプログラムは終了し、場所をホテル日航熊本に移して、懇親会が盛大に行われ、参加者の多くは2次会、3次会へと繁華街に消えていった。

第2日目は澤村誠志学会長の基調講演から始まった。「福祉のまちづくりの新しい連携—地域リハビリテーションの視点から—」と題して、氏の長年にわた

報委員会が入手した資料を基に作成したものです。

## 広報委員会から

る数多くの実践の一部が紹介された。

研究討論会2は、『福祉のまちづくり学』の創造と実践』というテーマで、長崎純心大学の日比野正己氏がコーディネートし、医療、教育、建築、行政、福祉の各界からパネリストが登壇した。本会が「福祉のまちづくり研究会」から「日本福祉のまちづくり学会」へと名称変更して最初の大会であることから企画されたものであろうが、フロアとの討論もなく、時間が過ぎてしまったことは残念だった。

午後は5会場に分かれて各分野ごとに研究発表が行われ、総数62題が報告された。

この他、自主企画として8日には、ビデオ上映や中学生を対象にした福祉のまちづくり学校が開催された。また全国市町村等の地域における福祉のまちづくりの活動を紹介するパネル展示や、懸賞論文の表彰も行われた。

第3日は屋外ワークショップとして見学会が企画され、低床バスや低床路面電車に乗って市の中心街からアーケードを廻り、第1回バリアフリーデザイン大賞を受賞した熊本学園大学の見学を行った。

## 総会速報

平成14年度の総会は8月9日(金)13:00～13:45に大会会場の熊本市民会館大ホールにて開催され、平成13年度事業報告および収支決算報告、ならびに平成14年度事業計画案および予算案は無事承認された。詳細は会誌上に議事録が掲載される。また、第6回全国大会は高山での開催が決定された。

## 第6回全国大会の案内

2003年7月17日(木)～18日(金)の日程で岐阜県高山市にて、JR高山駅の傍の高山市民文化会館を会場に開催。国際的な観光地である飛騨高山は古い街並みを残しながらバリアフリーのまちづくりに取り組んでいる。会場だけでなく、市内散策(調査)や温泉めぐりも含めた旅行スケジュールを立てよう。

また、2004年第7回全国大会は、プロポーザルのあった岩手県盛岡市で準備を進めることになった。

毎年開催されている世界最大のITと支援技術の国際会議。

## バリアフリー化推進功労者表彰

内閣府が創設したバリアフリー化推進功労者表彰制度で、内閣総理大臣賞と内閣官房長官賞が決定  
内閣総理大臣表彰

- 新井リゾート開発株式会社(新潟県)
- 下田タウン株式会社(青森県)

内閣官房長官表彰

- Accessible 盛岡(岩手県)
- 伊丹市(兵庫県)
- 財団法人共用品推進機構(経済産業省)
- 株式会社京急ファインテック(国土交通省)
- 財団法人すこやか食生活協会(農林水産省)
- 特定非営利活動法人ディヘルプ(千葉県、経済産業省)
- 特定非営利活動法人福祉のまちづくり市民ネットワーク(静岡県)
- バリアフリーデザイン研究会(熊本県)
- むくどりホーム・ふれあいの会(札幌市)

## イベント案内

### ●日本福祉のまちづくり学会研究討論会

#### 第1回「介護保険と住宅改修」

主催：日本福祉のまちづくり学会

共催：日本建築学会ノーマライゼーション環境小委員会

後援：(財)国土技術研究センター

■日時：11月8日(金)午後1時～5時

■場所：(財)国土技術研究センター

7階/第2・3会議室

東京都港区虎ノ門3-12-1 ニッセイ虎ノ門ビル

電話：03-4591-5004

FAX：03-4591-5014

最寄駅：地下鉄日比谷線神谷町駅下車徒歩2

分、地下鉄銀座線虎ノ門駅下車徒歩9分

<http://www.jice.or.jp/contact/index.html>

地図は上記URLにてご確認ください。

■話題提供者：

塩崎康弘（厚生労働省老健局振興課）  
橋本美芽（東京都立保健科学大学保健科学部作業療法学科）  
窪田 静（健和会補助器具センター）  
大宇根成子（町田すまいの会）

■コーディネーター：

古瀬 敏（独立行政法人建築研究所）

■趣旨

今回の研究討論会は2000年4月からの介護保険導入後における高齢者居住と住宅支援のあり方について、利用者及び利用者支援の立場で現状の問題点をどのように捉え、また改善すればよいかについて議論を深めます。例えば、介護保険導入前と導入後で高齢者の居住はどう変わったのか、制度の導入によって達成されたものは何か、あるいは導入により失われたものは何か、などなど、現状の実態から居住現場の問題点を掘り下げます。

話題提供を厚生労働省の塩崎さん、今年3月まで横浜市リハセンターにおられた橋本さん、サービス提供の現場に最も近い場所におられる窪田さん、そして町田市で住宅改修アドバイザーとして多様なニーズに対応した改修を手がけておられる大宇根さんをお願いしています。

介護保険はそもそも「在宅」居住を基本に据えたはずなのに、フローとしての人的サービスには多くの投資を行いながら、人間居住の前提であるはずの住宅のありようにはほとんど議論が成されていないといえます。このような制度の現状を直視して、今後それをどのように変革すべきかについて議論したいと思います。

本学会はさまざまな分野の人が加わっていますので、それぞれの経験を今回の研究討論会でご披露して頂き、課題解決する手だてを提案していきたいと思えます。

■参加費（資料代込み）

※参加費は当日受付にてお支払下さい。

日本福祉のまちづくり学会会員、日本建築学会会員  
2000円、学生1000円、その他の方3000円

■定員 100名

■申込み

下記まで Fax または e-mail で、お名前、所属、会

員の種類、住所、電話（fax）、e-mail をご記入頂き  
10 / 31（木）までにお申し込み下さい。（ただし参加  
申込者多数の場合は定員となり次第、締め切らせてい  
ただきますのでご了承下さい）

日本福祉のまちづくり学会連絡先

〒105-0001

東京都港区虎ノ門3-12-1（ニッセイ虎ノ門ビル）

（財）国土技術研究センター研究第一部内（志村）

TEL03-4519-5004

FAX03-4519-5014,

e-mail:fukushi@jice.or.jp

■参加証

申込み時の Fax 控えまたは、e-mail 送信控えが参加証となりますので、当日お持ち下さい。

## ●「アジア太平洋障害者の十年」 最終年記念国際フォーラム

1981年の「国際障害者年」とそれに続く「国連・障害者の10年（1983～1992）」の一連のキャンペーンによって、障害者運動の高まりや法制度の整備、人々の意識の変化など、大きく変化をした。しかし、アジア太平洋地域では、このような取組みが十分ではなく、日本が主な提案国となり、ESCAP（国連アジア太平洋経済社会委員会）による、「アジア太平洋障害者の10年（1993～2002）」が宣言された。今年はこの最終年にあたり、3つの国際会議と全国バリアフリーキャンペーンが日本で開催されることになった。

## 推進キャンペーン 2002

### 第12回 RI アジア太平洋地域会議

日程：2002年10月21日（月）～23日（水）

会場：国際障害者交流センター（ビッグアイ）

大阪府堺市

詳細は、最終年記念フォーラム事務局（日本障害者リハビリテーション協会内）

<http://www.normanet.ne.jp/~forum/>

emai:: [forum@dinf.ne.jp](mailto:forum@dinf.ne.jp)

## ●第6回 DPI 世界会議札幌大会

日程：2002年10月15日（火）～18日（金）

会場：北海道立総合体育センター「きたえる」

DPIはDisabled Peoples' Internationalの略で日本語では「障害者インターナショナル」と呼ぶ。世界53カ国の障害者が集まり、1981年に結成され、現在は120カ国以上が加盟する世界最大の障害者NGO。「障害者が生活しやすい社会は、すべての人々にとっても住みよい社会」と考え、福祉、人権、環境、女性などの課題を中心にさまざまな活動を展開している。世界会議は4年に1回開催されているもので、今年は札幌で開催される。

詳細は <http://www.dpi-sapporo.org>

## ●国際ユニバーサルデザイン会議 2002

人間（ひと）のために、一人一人（ひとりひとり）のために暮らしの明日を考える --- まち、もの、そして情報

（公式ウェブサイト：<http://www.ud2002.org/jp/>）

ユニバーサルデザインとは、できる限り多くの人々に利用可能なように最初から意図して、機器、建築、身の回りの生活空間などをデザインすることです。今回の国際会議は、日本国内の街づくりやものづくりの優れた研究事例に焦点をあて、積極的に世界へ発信することを意図しています。さらに、産、官、学の垣根を越えて、国内外の専門家が一堂に会し、これまでに蓄積されたユニバーサルデザインの成果を評価しつつ、情報の共有化と人的交流を行うことで、より高い水準へ到達することをめざします。ユニバーサルデザインが可能とする新世界の創造へ向けて、さまざまな立場の方々の幅広いご協賛とご協力、そして積極的なご参加をお願い致します。

開催日程：

開会式／公開シンポジウム

2002年11月30日

本会議（分科会・全体会議・展示会ほか）

2002年12月1日から4日

開催場所：

パシフィコ横浜 アネックスホール／会議センター

主催：国際ユニバーサルデザイン会議2002組織委員会（会長：山本卓眞）

特別協賛／協賛：富士通（株）、東日本旅客鉄道（株）、松下電器産業（株）、鹿島建設（株）、（株）日立製作所、トヨタ自動車（株）、（株）リコー、富士ゼロックス（株）、（株）ケンウッドデザイン、積水ハウス（株）、東陶機器（株）、松下電工（株）、（株）東芝、（株）乃村工藝社、ほか

会議構成分野：

- ・UD全般（理念／教育／ほか）
- ・建築／都市計画（交通／まちづくり／公園）
- ・住宅／住宅設備
- ・通信／情報機器
- ・日用品／生活用具 など

事務局：相鉄エージェンシー（担当：和田、矢野）。

TEL：045-450-7003 E-mail：[info@ud2002.org](mailto:info@ud2002.org)

## ●TRANSED 2004

第10回高齢者・障害者のモビリティと交通に関する国際会議

Accessible Transportation and Road Design: Strategies for Success

日程：2004年5月23日～26日

場所：浜松市

主催：TRANSED2004実行委員会

共催：土木学会、日本福祉のまちづくり学会、交通エコモ財団（事務局）、他

後援：Transportation Research Board, USA. 他

この会議は1978年以降3年に一度開催されており、英国で3回の他、米国、カナダ、スウェーデン、オーストリア、ポーランドで開催されてきた。移動に制約のある人にとっての生活環境は、近年、顕著に改善が進んできた。この数年間に、多くの国で移動制約者のアクセシビリティの改善を義務付ける法制化が進められてきた。しかし、まだ十分な解決にはなっていない。アクセシビリティの改善が「特別」なものとして考えられ、通常の交通計画の中に統合されるには至っていない。

ない。

今回の TRANSED2004 の日本開催は、アジア地域での最初の開催であるため、特にアジア地域における問題解決のための議論の場という役割を持っている。経済的で持続可能なアクセシブル交通を実現するための政策の議論や、継続的な調査研究への国際的支援などに期待が寄せられている。

本会議の詳細については決まり次第アナウンスしていく。

## ●第18回 障害者とテクノロジー会議 (CSUN)

2003年3月17-22日 ロサンジェルス

カリフォルニア州立大学ノースリッジ校が主催して毎年開催されている世界最大のITと支援技術の国際会議。

<http://www.csun.edu/cod/>

(株)ユーディットでサイトの翻訳とツアーを行なっている。

<http://www.udit-jp.com/ud/report/event/csun2002/honyaku/>

## ●ヒューマンインタフェース学会 関連イベント

### 【研究会】

- 第19回 「バリアフリー&福祉工学および一般」

日時：11月22日(金)・23日(土)

場所：東北大学 青葉記念会館

申込締切：2002年9月20日(金)

原稿締切：2002年10月25日(金)

<http://www.his.gr.jp/activities/meeting/read.html?019.cfp>

- 第20回 「ウェアラブル&ユーザビリティ」

日時：11月28日(木)・29日(金)

場所：東京大学 先端科学技術研究センター

申込締切：2002年9月30日(月)

原稿締切：2002年11月1日(金)

<http://www.his.gr.jp/activities/meeting/read.html?020.cfp>

- 第21回 「コミュニケーション支援および一般」

日時：2003年1月24日(金)・25日(土)

場所：岡山県立大学

申込締切：2002年11月25日(月)

原稿締切：2002年12月27日(金)

<http://www.his.gr.jp/activities/meeting/read.html?021.cfp>

## ● Winter Seminar

「高齢者と障害のある人のためのデザイン」のご案内

主催：ヒューマンインタフェース学会

企画：事業委員会

高齢社会を迎えてだれもがある意味での障害を持つようになります。障害がある人の前にはバリア(障壁)があるといわれ、バリアの向こう側には私たちが普段使っている道具や、気持ちを伝えたい人が+います。

ヒューマンインタフェースはまさにこのバリアに対して「架け橋」の役割を果たすことができ、そうあるべきものであると考えられます。また、「架け橋」は、障害のある人の自立生活を支援するだけでなく、障害をとくに持たない人々が便利で快適に使える道具作りの際のヒントを示唆してくれます。本セミナーはこのような観点から、高齢者や障害のある人のためのデザインの基礎的な考え方からその実践例を通して、ヒューマンインタフェースデザインの考え方をご紹介します。

テーマ：

「高齢者と障害のある人のためのデザインの考え方と実践」

日時：2002年12月11日(水) 13:00-17:50

場所：京都キャンパスプラザ 4階第4講義室

(京都市下京区西洞院通塩小路下ル)、

Tel : 075-353-9111

<http://www.consortium.or.jp/campusplaza/index.html>

交通：JR 京都駅北側 徒歩3分

参加費：正会員 1万円 / 賛助会員 1万2千円

／一般非会員 1万5千円

学生会員 3千円 / 学生非会員 5千円

参加費には、テキスト代が含まれます。

定員：100名

問合せ・申込先：

ヒューマンインタフェース学会事務局

セミナー担当

● RESNA 2003 - 26th International Conference on Technology & Disability: Research, Design, Practice and Policy

June 19-23, 2002

Hyatt Regency - Peachtree Street

Atlanta, GA

Download Kits at: [www.resna.org/conferences](http://www.resna.org/conferences)

Request Kits at: [resna2003@resna.org](mailto:resna2003@resna.org)

● ICCC-International Council for Careing Comunitas, Inc.

We would appreciate your posting the attached announcement for the annual "Caring Communities for 21st Century: Imagining the Possible" Wednesday, Feb. 12, 2003. Theme focuses on "Age of Connectivity"...your "spreading the word" is deeply appreciated. Wishing you continued success...Jane Ross, Coordinator

ICCC は国連の NPO です。NY の国連本部に入れるチャンス、詳細は [www.international-iccc.org](http://www.international-iccc.org)

---

## 福祉のまちづくり —私の視点、私の論点—

福祉のまちづくり学会へと名称変更を行ったが、「福祉のまちづくり学」とはどのような体系なのだろうか。学際領域の学問だから、いろいろな立場の人、いろいろな既存の学問領域の人が参加している。それぞれの立場や学問領域から「福祉のまちづくり」について論じてみるのがまずは糸口になるのではないだろうか。「私の視点、私の論点」として N&R 紙上で掲載していく。まずは、幹事を中心をお願いすることになっているが、寄稿順に掲載していく。会員各位の忌憚の無いご意見を寄稿いただきたい。

## 住まいの長寿社会対応

古瀬 敏 (建築研究所)

福祉のまちづくりという言葉聞いたとき、人によ

って思い浮かべることが違いただろう。筆者がとっさに思うのは、たぶん一般の人と同様に車いすと視覚障害者誘導ブロックだが、残念ながらこれらは筆者にとってはかなりネガティブな意味を持っている。

なぜかという、筆者の研究の出発点は障害者対応ではなく、むしろ日常安全性と使い勝手であり、しかもすべての利用者を対象として対策を考え始めたからであろう。

もちろん、青壮年よりは子どもと高齢者との安全の問題が集中していることはすぐにわかったし、なかんずく高齢者を議論することが肝要であることも疑いようがなかった。寿命の延びに伴って問題が長期間にわたるにも関わらず、本人の意識では「ごくふつうの」高齢者が抱えるに違いない問題は、あまり意識して議論されたことがなかったのである。

幸か不幸か、あらゆる時点で問題を引き起こしながら成長してきたわが団塊の世代は、いずれ必然的に直面する高齢期においても同様な難題に対処しなければならない。それをあらかじめ解決すべく手を打つことは不可能だろうか、というのが筆者にとっての高齢社会へのアプローチであり、とくにそれなりの対応が見えつつあったまちや公共建築物と異なって、まだ誰も手をつけていなかった住宅の長寿社会対応が挑戦すべき目標となった。

歳をとっても安全で住まいやすい家、当たり前そうできてじつはほぼ完全に欠落していたこの長期的な視点が高齢対応には必須なのだが、それは個別対応がほぼ間違いなく必要な障害者対応のアプローチではあまり意識されなかったことである。

多くの国民にとっていわば既得権と思われていた住宅金融公庫融資が、民間金融機関の金余りによって住宅金融公庫自体が不要という集中攻撃を受け、政府の住宅政策との連動が基本、ということ宣言せざるを得なくなった 1990 年代半ば、それまでにつくりあげていた「長寿社会対応住宅設計指針」が公庫融資の高齢対応の基本となったのは、指針案作成から数年経っていて住宅供給側も覚悟をしていたことから当然であった。今やそれから数年、もはや住宅の高齢対応だけでは新聞広告のキャッチフレーズになりもしない、というまでに高齢対応は当たり前になった。もちろん、

中身は最後には買い手の懐加減で決まるから十分でない場合が多いが、それでも意識されていることは確かであろう。これは、十数年以前は考えられもしなかったことである。

こうした経験をふまえると、「福祉のまちづくり」を議論するとき、それが長期展望なのかそれとも短期なのか、マクロなのかそれとも個別を議論するのかははっきりさせておくべきだろうと思う。

## ——福祉のまちづくり関連団体の紹介——

各地で活躍中の NPO 等の活動を紹介します。掲載ご希望の団体はどしどし投稿ください。記事内容は広報委員会が入手した資料を基に作成したものです。

### ●アクセシブル盛岡

市民による「高齢者や障害者を含めたすべての人にやさしい街づくり」をテーマに平成 5 年 (1993) 10 月発足。会は市民の自主的な参加と、経費は参加者が割勘で払うという自立性と公平性をもって運営。月に 1 回テーマを決め、ゲストを招いて話し合い交流を深めている。これまで、「観光地のバリアフリー」や「商店街のバリアフリー」。「生涯を持つ人や高齢者の交通安全」などをテーマにあげ、タウンモビリティ実験やリニューアルなどの実績につながっている。この他、高齢者や障害者にも参加できる旅行を企画し、東京、横浜、北海道、沖縄など国内各地や、ハワイ、ニューヨークにも出かけている。

活動は盛岡にとどまらず、江刺、宮古、花巻、釜石、北上に広がり、東京と仙台を含め、県下各地に支部が結成され活動が拡大しつつある。

連絡先：

盛岡市長田町 2-21 インクス・アド内

アクセシブル盛岡

Tel:019-653-7717

Fax:019-625-2277

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~amtime/>

### ●もっと優しい旅への勉強会

～だれでも、自由に、どこへでも～

ノーマライゼーションの理念を尊重し、障害のあるなしにかかわらず「だれでも、自由に、どこへでも」旅が楽しめる社会環境を作ること (Tourism For All) を目指すために 1991 年に設立された。

毎月の勉強会から始め、実際に街に出て小旅行を体験する「日本列島遊び隊」や身近な課題を法的側面から学習する「学び隊」などの活動を実施。1994 年と 1997 年には「もっと優しいたびへのシンポジウム」を開催し、2001 年にはウェブサイト「もっと優しい旅ネット」を開設した。ウェブサイトでは、各交通機関や交通事業者ごとの配慮内容やアクセシブルな宿泊施設、観光地などの情報が提供されている。

会員は、旅行会社、航空会社、ホテル、福祉団体をはじめ、学生、医師、主婦など障害の有無に関わらず多岐にわたっている。

連絡先：

〒 157-0073 東京都世田谷区砧 1-29-4

「もっと優しい旅への勉強会」事務局

Tel&Fax:03-3416-0428

<http://www.yasashiitabi.net>

e-mail: [info@yasashiitabi.net](mailto:info@yasashiitabi.net)

### ●NPO ユニバーサルデザインシステム

住宅問題を中心課題にすえ、住宅改造、ユニバーサルデザイン住宅環境づくり、ユニバーサルデザイン製品づくりの開発、ユニバーサルデザインシステム標準を確立させる事を推進するとともに、その成果を広く関係者に普及し、在宅生活者、高齢者、障害者の相談窓口業務を開設する事で、不便さの無い住環境づくりに寄与する事を目的として NPO として設立された。

第一段階の事業として、精度の高い住宅改造を提供する仕組みづくりに取り組んでおり、医療関係者、建築設計士、デザイナー、プランナーなどが一丸となって相談に応じるネットワークを構築中である。このネットワークは「住環境整備ネットワーク」といい、法人の所在地である静岡県を中心に展開しつつあるが、

将来的には全国をネットワークすることを目指している。

具体的には、リハビリテーションの専門家と建築の専門家そして工事がわかる人（工務店・大工など）の三者を一組にして、中学校区程度の範囲に配置し、インターネットで受け付けた相談に対して最寄の信頼できる支援チームを派遣するという仕組みである。相談員（チーム）として登録するには一定の要件が定められており、例えば、障害者等の住環境整備に3年以上の実務経験があり、各専門家間のネットワークを持ち、利潤追及ではなく、相談の質が保たれるよう継続的な勉強会を行えることなどが求められている。

連絡先：

〒420-0025 静岡市金座町6-2  
NPO ユニバーサルデザインシステム  
Tel:054-653-1012 Fax:054-653-1013  
<http://www.across.or.jp/uds/>  
e-mail: uds@po3.across.or.jp

## ● UDNJ ユニバーサル・デザイン・ネットワーク・ジャパン

インターネット上のメイリング・リストとして活動している団体。ユニバーサルデザインに関連するさまざまな個人が、関連する情報を持ちよって、日本や世界にユニバーサルデザインの考え方を学び、理解し深め、広めていこうとしている。ユニバーサルデザインにかかわる団体の活動を紹介したり、日常生活で感じたさまざまなモノなどへの疑問点をオンラインで話し合っている。「個人の資格での自由な発言を通じ、ユニバーサル・デザインの考え方に基づいて世の中を良くしていこう。」という人は、会員の紹介があればだれでも会員になれる。会員には本会の会員も多く、熊本大会では盛大なオフライン・ミーティングが行われた。

連絡先：

〒167-0022 東京都杉並区下井草5-11-18-202  
Tel:090-1772-9545  
UDNJ 事務局  
<http://www.udnj.org/>

## 広報委員会から

先号で実施しましたN&Rの電子化に関するアンケート調査にご回答いただきありがとうございました。30通のご意見を頂戴することができました。

広報や案内の電子媒体での受領は30名全員が希望していますが、「電子情報だけでよい」は19名、9名は紙での配信も必要と答えています。電子メールを読む頻度は27名はほぼ毎日、後の3名も週に1度は読むとのことでした。ウェブ上での公開だと積極的に読みに行かない人も多いが、一方電子メールでの配信だと長文のメールを音声読み上げで聞くのは大変という意見もありました。回答数も30と少ないこともあり、しばらくは郵便物としてのN&R配布と電子メールでのイベント情報を並行して行います。電子メールをお持ちで登録されていない方は事務局までご連絡ください。

### 事務局（連絡先）移転のお知らせ

委託先の移転に伴い住所等が変更になりました。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-12-1  
(ニッセイ虎ノ門ビル)

(財) 国土技術研究センター研究第一部内

TEL03-4519-5004 , FAX03-4519-5014

e-mail:fukushi@jice.or.jp